

奈の良

第14号

天理市・桜井市

- なら歴史芸術文化村1p
- 天理大学附属天理参考館2p
- ジャンたこ天理店3p
- 大神神社・ローゼの菓瓶4p



写真：大神神社

歴史を将来につなぐ ーなら歴史芸術文化村

私は、奈良国立博物館の解説ボランティアをしている関係で、「文化財保存修理所特別公開」のイベントに参加し、この目で仏像修復の現場を見る機会があり、印象深かった経験があります。この貴重な経験を北京に住んでいる家族や友達に話すと、ほとんど皆が「素晴らしいですね、私も参加したいです。」という反応でした。しかし、残念ながら、外国人観光客にとって、このような不定期に特定の団体に向けて行われるイベントに参加するのはなかなか難しいです。

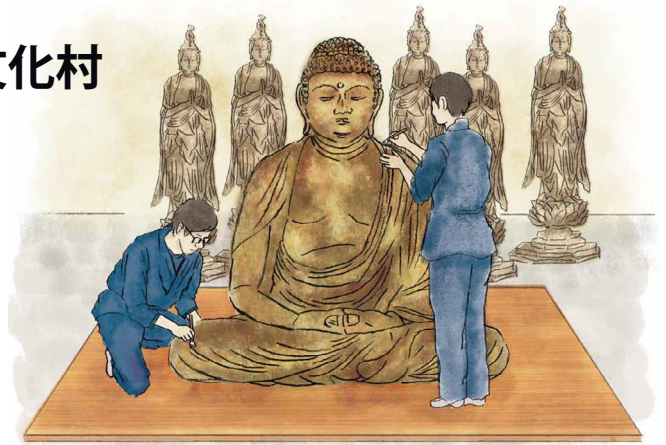
しかし、嬉しいことによりやく北京の家族や友達に良い情報を伝えられます。というのは、奈良県天理市に開村予定の「なら歴史芸術文化村」（以下「文化村」）という施設では、一年を通して仏像等の修復現場が解説付きで公開されるそうです。そうすると、海外に住んでいる友達が奈良に来た際、見学することができるようになります。また、「文化村」に設置される予定の「修復工房」は「仏像」のような彫刻品の修復だけでなく、「絵画・書跡等」、「歴史的建造物」、「考古遺物」といった四つの分野での文化財修復作業が公開されるそうです。これが実現すると日本でも初めての快挙です。

これは本当に素晴らしいことだと思います。奈良に三年間住んでいる外国人として、私は「歴史」と「文化芸術」は奈良の強みではないかと思っています。

奈良県の国宝・重要文化財の件数は1327件で、日本で第三位です。その中でも彫刻（ほとんどが仏像）及び建造物の国宝の件数は、ともに日本第一位です。特に奈良には「正倉院宝物」を始めとする中国唐時代（618 - 907年）の文物が沢山残され、仏像・建造物・行事等にも唐時代の影響が強く見られますので、古都奈良は多くの中国人にとって特別な意味を持ち、憧れの都市だろうと思います。



イメージパース（画像提供：なら歴史芸術文化村整備推進室）



仏像修復現場のイメージ（画像提供：なら歴史芸術文化村整備推進室）

2022年3月開村予定の「文化村」は、奈良県が2015年から進めてきたプロジェクトだそうです。ですから、「開村」後、奈良にどんな変化をもたらすのだろうかに興味深く、私は奈良県庁の「なら歴史芸術文化村整備推進室」で詳しくお話を聞きました。まず、「文化村」の設置目的について教えていただきました。「文化村」は、奈良県の歴史芸術文化活動の拠点として設置され、イメージパースのように、さまざまな施設や多彩な機能を有するものだそうです。室内展示・文化体験・情報発信の機能があり、複数の建物で構築された複合的な施設だそうです。また、中・短期滞在したいお客様は、隣接するホテルで、99室あるフェアフィールド・バイ・マリオット・奈良天理（2022年春開業予定）も利用することが出来ます。

甲子園球場のグラウンド面積は約1.3万㎡ですが、「文化村」の敷地面積は約3万㎡です。奈良県は2019年に天理大学と連携協定を結ぶなど、「文化村」における県内外のさまざまな機関や団体との交流に向けた準備も進んでいます。特に、天理大学図書館や天理大学附属天理参考館等の文化施設と連携した企画展示も期待できます。また、「文化村」では「体験型」の文化イベントも楽しむことが出来るそうです。特に、奈良県が就学前の子供達の教育を促進するために行っている「はばたくなら」プロジェクトの一環として幼児向けアートプログラムを、「文化村」で実施する予定があり、小さな子どもを連れ、家族が楽しめる場になるでしょう。

さらに、奈良県産農産物や伝統工芸品などお買い物を楽しめるほか、奈良県産の食材を使ったレストランや、料理教室を開くことができる実習室もあります。このほか、ホールやセミナールーム等も整備され、今後「文化村」を中心に周辺地域の文化・芸術の雰囲気が高まり、地域活性化につながっていくことでしょう。

最後に、インタビュー後、初心者の私が詠んだ歌を一首皆さんに紹介します。是非来てくださいね。

そらにみつ大和の国に新しき羽を広げるなら文化村よ

- ・奈良県 文化・教育・くらし創造部 なら歴史芸術文化村整備推進室
- ・所在地：〒630-8501 奈良市登大路町30
- ・<http://www.pref.nara.jp/46785.htm> / QRコード→



歴史を大事に—天理参考館の印象

奈良県天理市にある天理大学附属天理参考館（以下：参考館）は、世界各地の生活文化資料・考古美術資料を収集・研究・展示する博物館です。2020年は参考館創立90周年の記念すべき節目の年です。写真のように、その建物は非常に個性的です。私は一年前に日本人の友達と一緒に参考館を見学し、その素晴らしさに感動しました。是非皆さんにも紹介したいと思います。

今回は、参考館の学芸員の早坂さんにお話を聞きました。民族学資料を収集・研究・展示する博物館として有名な国立民族学博物館（大阪）は、1974年に創設されましたが、参考館は1930年の創立なので、それよりも古い歴史があるそうです。その90年の蓄積により、参考館のコレクションと寄贈品を合わせて、現在、館藏品は30万点にも達しています。

常設展示作品は3000点程度あり、「世界の生活文化」・「世界の考古美術」にわけて展示されています。「世界の生活文化」展示エリアでは、一部の展示品は作られた時代を再現したコーナーに展示されています。この展示方法は、見学者にとって臨場感溢れる素晴らしい経験になると思います。

例えば、1階の第3展示コーナー「福禄寿」には、1930年代の北京の街で使われていたお店の看板（中国語では「幌子」）の実物が展示されています。中国から来られたある年配の見学者の方が感無量の面持ちで「懐かしいですね。まさかここで見る事が出来ると思わなかったです。」と言うのを早坂さんは聞いたそうです。また、ある若者が「面白いですね、私は北京に住んでいますが、この看板を見たことがないです。」と興味深く写真を撮っている様子も見たことがあります。何十年も前の看板の実物を通じて、当時の北京の街の様子を味わうことが出来るというのは、とても貴重な経験だと思います。



参考館正面

この作品は、おそらく遠い道を渡って、シルクロードの東の終着点である古都奈良に来たのでしょう。教科書でしか見たことがない「唐三彩」をこの目で、奈良県の天理参考館で見ることができたのは不思議で感慨深いです。

また、参考館の受付では、7カ国語の無料パンフレットが用意されています。外国人観光客にはとても便利です。

同じく電話で話を伺った参考館広報の中村さんによると、参考館は常設展示以外に、特別展・企画展や公開講演会、ミュージアムコンサート、ワークショップ等、さまざまな活動を行っています。文化庁支援事業をはじめとする天理市や地域との様々な連携活動も盛んです。考古学分野で有名な「奈良県立橿原考古学研究所附属博物館」と天理市教育委員会との共同展や、古文書の蔵書において日本で有数の「天理大学附属天理図書館」との共催展も企画しています。

中村さんによると、2018年上海工芸美術博物館副館長ほか5名の中国人が参考館の「中国の風俗人形—近代以降の土人形と黄楊人形—」展を見学した折、「黄楊人形は中国でも残っていない貴重なものです。」と評価されたそうです。中村さんは「海外現地の方々のコメントを通じて、改めて本館の良さを見つけることが出来て良かったです。」と語りました。

また、中村さんは『奈の良』の読者に「今はコロナ禍で難しいですが、国内外より奈良にお越しの際は、是非当館にお寄りいただければと思います。楽しみにお待ちしております。」と熱烈な歓迎の思いを述べられました。

- ・所在地：〒632-0035 奈良県天理市守目堂町250
- ・アクセス：JR・近鉄天理駅より徒歩20分
- ・<https://www.sankokan.jp/> QRコード→
- ・写真提供：天理大学附属天理参考館



北京 街の看板



三彩連銭馬(8世紀)

私が一番好きな展示品は、3階の中国考古美術のコーナーに展示されている「唐三彩」の実物です。「唐三彩」は古代中国唐の時代（618 - 907年）で作られた焼き物で、白地の粘土で形を作り、焼いた後、緑色や褐色、または藍色や黄色などに発色する釉薬をかけて、独特な色合いを出しています。「馬」や「角端」、「三彩神将」等様々な作品が展示され、現在多少色が薄くなっていますが、1200年前の色がどれだけ鮮やかだったか想像することができます。

たこ焼き、神社、スイーツ：天理市・桜井市でゆっくり過ごす一日

今回は、奈良市に近い天理市と桜井市を舞台にこの記事を書きました。天理市にあるたこ焼き店の「ジャンたこ天理店」をはじめ、桜井市にある大神神社、ケーキや焼き菓子などのスイーツショップ「ローゼの菓瓶（かびん）」を紹介します。



たこ焼き：関西を代表する食べ物

関西の食べ物といえば、「たこ焼き」というイメージが極めて強いと思います。アイルランドとイギリスでは、宗教上の理由やぬるぬるした見た目から、たこを食べる文化がありません。私自身も、来日するまでたこを食べる機会がなく、来日して初めてたこ焼きを食べ、たこ焼きが日本料理の中で一番好きな食べ物になりました。今回は、天理市にあるたこ焼き店を紹介したいと思います。

「たこ焼き」とは、小麦粉や出汁等で作った生地、タコやネギ等の具を入れて球形に焼き上げ、ソース等をかけて食べる郷土料理です。たこ焼きの起源は大阪だと言われており、昭和10年(1935年)に、大阪府西成区の「会津屋」(あいづや)の創業者である遠藤留吉(えんどうとめきち)という創業者が考案したという説があります。もともとは、醤油をかけて食べていましたが、戦後にとんかつソースや中濃ソースが発明されてから、ソースをかけて食べるようになったそうです。

今回、取材に伺った「ジャンたこ天理店」というたこ焼き店では、ハリウッドソースやカレーソースなど、様々なソースがあるのが特徴です。

ジャンたこ天理店

「ジャンたこ天理店」は、1986年にオープンしました。本店である天理店の他に、奈良一条店と大阪の今川店があります。テレビ番組にも何度も特集されている人気店です。



「ジャンたこ天理店」でのインタビュー

今回は、「ジャンたこ天理店」にて、鈴木さんにインタビューさせていただきました。

1. ジャンたこの魅力を教えてください。

ジャンたこでは、注文を受けてからたこ焼きを焼きます。焼き上げるまで20分程かかりますが、焼きたてを召し上がっていただけます。ソースの種類が多いのも魅力です。

2. 一番人気のソースはどれですか？

一番人気のソースは、定番のソースです。ほとんどのお客様がソースジャンたこを注文されます。ソースとだし醤油がおすすめです。

3. 外国からのお客様はよく来られますか？

欧米豪の方々は少ないですが、合宿等で天理に来られた台湾や韓国の方々など、アジア圏のお客様は結構いらっしゃいます。

4. 他府県からのお客様はよく来られますか？

全国からたくさんの方がいらっしゃいます。近畿地方からは主に大阪府と三重県からのお客様がいらっしゃいます。

5. たこ焼きの魅力は何だと思いますか？

関西人にとっては、とても馴染みのある食べ物だと思います。誰もが知っている、誰もが一度は口にしたいことがあるというぐらい馴染みがるところがたこ焼きの魅力の一つだと思います。

ジャンたこ天理店に入った瞬間、たこ焼きのソースの香りが漂ってきました。ジャンたこには、ソースの他に、ポンズ、からしマヨソース等のソースが16種類あり、その中でも、私は、カレーソースやハリウッドソースが特に気になりました。今回は、一番人気のソースやカレーソース、辛子明太子マヨをいただきましたが、外がカリカリ、中はトロトロで非常に美味しかったです。こだわりのソースがポイントで、まさに理想のたこ焼きで絶品でした。様々な味を試せるのも面白いポイントで、16種類の中から自由に好きなソースや気になるソースを選ぶことが出来るセットも販売されているので、店舗では色々なコンビを楽しむことができます。

たこ焼きの熱いファンの方々にもたこ焼きをまだ食べたことがないの方々にもジャンたこのたこ焼きをお勧めしたいです。

大神神社：神秘的な経験

日本には様々な文化がありますが、その中でも、神社に参拝することは私にとって、特に興味深いことです。今回取材した、桜井市にある大神神社は、日本最古の神社のひとつとして有名です。

大神神社は、三輪山をご神体として、大物主大神（おおものぬしのおおかみ）をお祀（まつ）りする神社で本殿がないのが特徴です。

今回は、大神神社の神職さんが拝殿をはじめ、「巳の神杉」（みのかみすぎ）、狭井（さい）神社、大和和の杜（もり）展望台、久延彦（くえひこ）神社を案内してくださいました。

寛文4年（1664年）に徳川四代将軍家綱公によって再建された拝殿は、国の重要文化財に指定されています。迫力ある拝殿を参拝すると、心が落ち着いたような気がしました。



拝殿付近では、お守りやお神符（ふだ）等を授与する授与所があります。社頭では、「御朱印」も授与しており、今回は、私が持参した御朱印帳に「大和国一之宮」「大神神社」の御朱印（書きおき）を頂きました。これからは、この御朱印帳を見るたびに、大神神社が思い浮かぶと思います。おみくじも引き、「末吉」が出ました。日本語版しかありませんが、色々なことが書いてあるので、面白いです。

拝殿の前にある「巳の神杉」（みのかみすぎ）は、大物主大神（おおものぬしのおおかみ）の化身の白蛇がこの杉の洞から出入りすると信じられ、「巳の神杉」の名前がつけられたそうです。

蛇は、親しみを込めて巳（み）さんと呼ばれ、巳（み）さんの好物である卵がお供えされています。



拝殿を離れ、大物主大神の荒魂（あらみたま）をお祀りする狭井神社に行きました。取材に行った日は、お盆休みでしたので、参拝者が思ったより多かったです。拝殿脇には、御神水が湧き出る薬井戸と呼ばれる井戸があります。この御神水は、万病に効くといわれており、薬井戸では、誰でも御神水をいただくことができます。私も御神水をいただきましたが、すっきりしていて、美味しかったです。生水なので、早めに飲んだほうが良いそうです。



大和和の社展望台からは、大和三山（畝傍山、耳成山、天香久山）がよく見える上に、豊かな自然の中でゆっくりとリラックスした時間を過ごすことができます。特に桜の時期には絶景が楽しめるそうです。

次に、久延彦神社を訪れました。久延彦神社には、久延毘古命（くえびこのみこと）が祀られ、「古事記」に、世の中のことをよく知っている智恵の神様として記されています。進学、受験合格、就職等を祈願する方にピッタリです。フクロウをモチーフにした願かけ絵馬があります。

神秘的な大神神社に参拝する機会があつて感謝しています。この精神的な経験を通して、一層、神道を理解できて、大変感動しました。

「ローゼの菓瓶」：ゆっくりケーキを食べ、紅茶を飲む

アイルランドでは紅茶の消費量が非常に多いことをご存知でしょうか？紅茶は、18世紀にアイルランドに伝わり、紅茶の文化が発展し、現在、紅茶はビールよりも大事な飲み物になりました。紅茶とフレーバーティーのみならず、お菓子とケーキもよく食べ、首都では、アフタヌーンティをする方々は少なくはないです。今回は、桜井市にある「ローゼの菓瓶」というお店を紹介したいと思います。



可愛い淡いピンクの建物である「ローゼの菓瓶」に入ると、綺麗なデザインのケーキがたくさん並んだショーケースがあります。季節の「ももショート」、「フルーツバスケット」、「ドイツ風チーズケーキ」等のケーキはとても美味しそうだったので、どれを食べるか迷いました。さまざまな味のドーナツとケーキも発売されており、お土産にも最適だと思います。飲み物のメニューは、クラシックなアールグレイから甘美ストロベリーティーなど、ティーの種類がたくさんありました。コーヒーやジュースのメニューもあります。

2階に上がると、おしゃれなカフェスペースがあり、お持ち帰りだけでなく、店内で飲食をすることができます。今回、注文した「キャラメルポワール」とアールグレイは、想像どおり、とても美味しく、キャラメルの甘さとアールグレイの微かなシトラスと紅茶の味がピッタリな組み合わせでした。ゆっくりと時間を過ごしたい方々と甘いものが大好きな方々は、ぜひ訪れてみてはいかがでしょうか？



な ら 「奈の良」とは

こんにちは。

私たちは奈良県国際課に勤務する国際交流員です。

奈良県と海外の交流を深める架け橋となるべく、日々、国際交流業務に従事しています。

『奈の良』は、外国人の目線で見えた奈良県の魅力を県民の方々や外国から来られたお客様に紹介するため、私たちが奈良県で見つけた魅力や面白いことについて自ら取材し、記事にしたものです。本誌が奈良県に興味を持つきっかけや外国人が感じる奈良の魅力を発掘する手がかりとなれば嬉しく思います。



編集後記

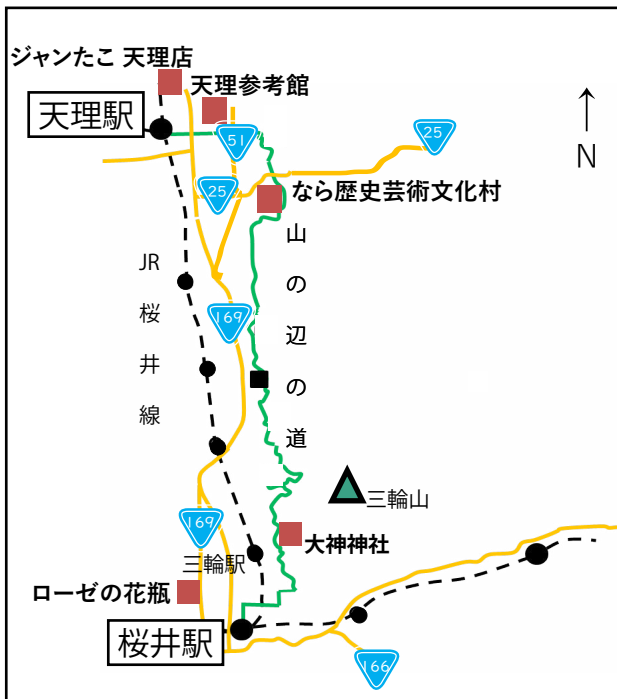
呉春蘭（写真左）

大阪等に移り住む奈良出身の若者が多いそうですが、私の周りには関東から奈良に移り住んでくる年配の日本人の方も何人かいます。その意味では、奈良は「知る人ぞ知る所」と言えるかもしれないですね。私自身、奈良で生活してみて、古都奈良は世界においても「唯一無二」の存在だとよくわかったので、奈良について「知らない人に奈良を知ってもらいたい」という気持ちを強く持っています。

クランシー・ケイティー（写真右）

憧れの桜井市と楽しい天理市に取材に行くことが出来て、大変うれしかったです。大神神社を案内していただき、とても貴重な経験をすることができ、感動した上に、心が癒されました。また、たこ焼きの熱いファンとして、「ジャンたこ」のたこ焼きは、言葉がでないくらい美味しかったです。最後に、「ローゼの菓瓶」は、私のように綺麗な場所で、美味しいものを食べながら、ゆっくりと過ごすひとときが好きな方にお勧めしたいです。

天理市・桜井市

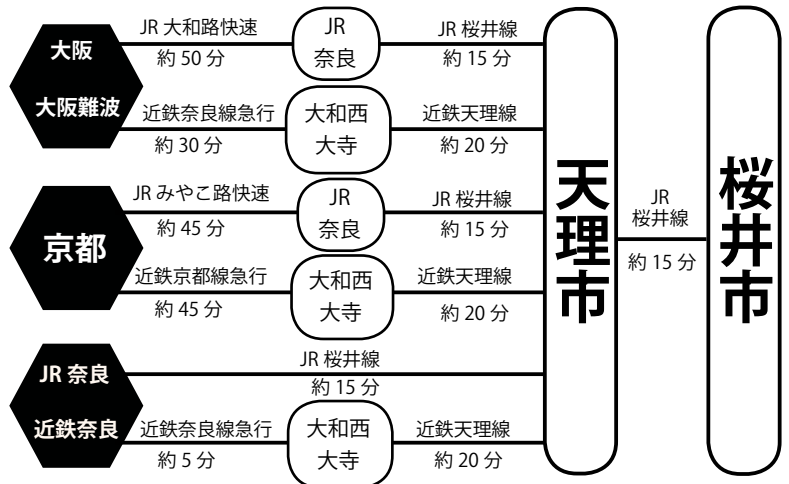


Special Thanks

今回の取材にあたり御協力いただいた奈良県 文化・教育・暮らし部 なら歴史芸術文化村整備推進室、天理大学附属天理参考館、ジャンたこ天理店、大神神社、ローゼの菓瓶、天理市、桜井市の方々にお礼申し上げます。

アクセス

電車を利用する場合



車を利用する場合

大阪から：約 1 時間
京都から：約 1 時間 20 分 } 天理まで
奈良から：約 30 分

天理から桜井まで：約 20 分

『奈の良』

発行元：奈良県知事公室国際課

発行：令和 2 年 11 月

本誌に関するご意見、ご質問等はこちらへご連絡ください。

〒 630-8501 奈良市登大路町 30 奈良県知事公室国際課

TEL：0742-27-8477

FAX：0742-22-1260